

Explore the future

株式会社堀場製作所

2006年12月期 中間決算説明会

代表取締役社長 堀場 厚

2006年11月20日

HORIBA

(C) HORIBA, Ltd.

免責事項

本プレゼンテーション資料には、株式会社堀場製作所の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。

また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

説明内容

- **中間決算サマリー**
- 業績通期計画
- セグメント別詳細説明
- 経営上の取組事項
- 新中長期経営計画概要

2006年12月期 中間連結決算概要

新・中長期経営計画初年度、順調なスタート
事業間の損益バランス改善、自動車ビジネス偏重からの脱却推進

P/L

売上高、営業・経常・当期利益過去最高額を計上
営業利益率向上(8.4% 10.0%)
特別損益収支4億円改善

当期利益 + 97%

半導体システム、分析システム好調

B/S

借入金増加(前期末88億円 105億円)
ROA(中間) 3.8% 4.9%

DTS事業へ資金投入

効率経営・バランスシート健全化推進

C/F

業績好調により営業CF + 27億円計上
投資活発化で投資CF 23億円計上

情報システム投資

営業CFを将来に向けた積極投資に活用

Explore the future

HORIBA

2006年12月期中間連結業績

(金額:億円)

	06年3月期中間	06年12月期中間		従来予想	
	実績	実績	前年同期比	8/1時点	5/10時点
売上高	446	606	+159 (+35.6%)	550	530
営業利益	37	60	+23 (+62.0%)	50	44
営業利益率	8.4%	10.0%	+1.6P	9.1%	8.3%
経常利益	38	57	+19 (+50.2%)	46	40
当期利益	16	32	+16 (+97.3%)	24	20
ROE(参考)	3.0%	4.9%	+1.9P	-	-

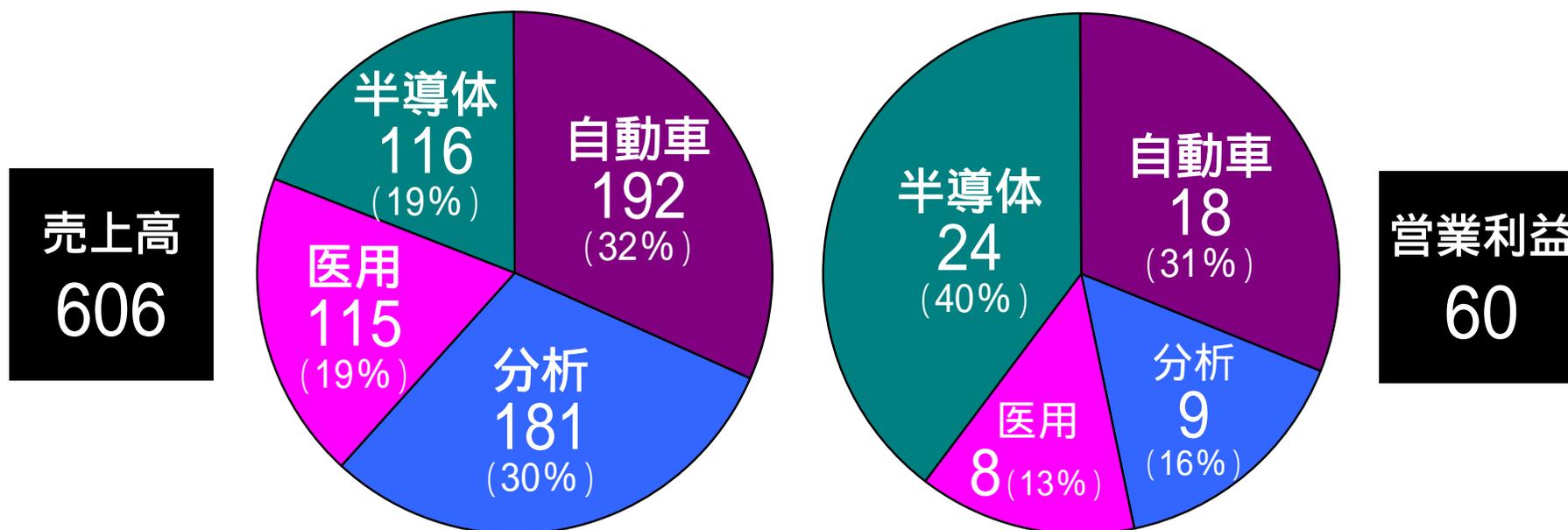
Explore the future

HORIBA

セグメント別業績概要

(金額:億円)

セグメント別 金額・構成比



対前中間期比	自動車	売上高 52.6%増	営業利益 26.5%減
	分析	売上高 27.3%増	営業利益 赤字から10億円増
	医用	売上高 24.0%増	営業利益 292.2%増
	半導体	売上高 37.1%増	営業利益 125.7%増

Explore the future

HORIBA

説明内容

- 中間決算サマリー
- **業績通期計画**
- セグメント別詳細説明
- 経営上の取組事項
- 新中長期経営計画概要

連結売上高・営業利益率・ROE推移

(金額:億円)



■ 売上高 ● 営業利益率
● ROE

2006年12月期(計画)

決算期変更の影響あるも
増収を確保
年換算では大幅増収増益

- 受注残高が過去最高水準
358億円(前中間期比126億円増)
- DTS事業の売上高が通年寄与
120億円(前期32億円4Qのみ)
- 円安は損益に好影響

2006年12月期 連結業績通期計画

(金額:億円)

	2006年3月期	2006年12月期(計画)		前回予想	参考予想
	実績	修正計画	前期比増減	8/1 時点	12ヵ月
売上高	1,056	1,100	+43 (+4.1%)	1,020	1,280
営業利益	112	107	5 (5.1%)	96	137
営業利益率	10.7%	9.7%	1.0P	9.4%	10.7%
経常利益	111	102	9 (8.9%)	88	132
当期利益	64	56	8 (13.5%)	50	75
ROE	11.0%	8.3%	2.7P	7.4%	11.0%
為替レート	2006年想定為替レート US\$ = 115円 EUR = 144円 2005年度実績 US\$ = 110円 EUR = 136円 円高の影響 1円につき、ドル 5,900万円、ユーロ 2,500万円 営業減益				

Explore the future

HORIBA

2006年12月期セグメント別業績予想

(金額:億円)

	売上高	前期比	営業利益	前期比
自動車	370(350)	+7.4%	36(36)	44.7%
分析	320(290)	2.1%	21(17)	+58.8%
医用	220(205)	+7.3%	16(16)	+67.9%
半導体	190(175)	+5.3%	34(27)	+36.5%
合計	1,100 (1,020)	+4.1%	107(96)	5.1%

()内は、8/1時点予想

Explore the future

HORIBA

説明内容

- 中間決算サマリー
- 業績通期計画
- **セグメント別詳細説明**
- 経営上の取組事項
- 新中長期経営計画概要

全社事業戦略

4つのセグメントをバランスよく成長させる

全社ベースの業績振れ幅を抑え、経営を安定化

セグメント間のスムーズなリソース移動が可能

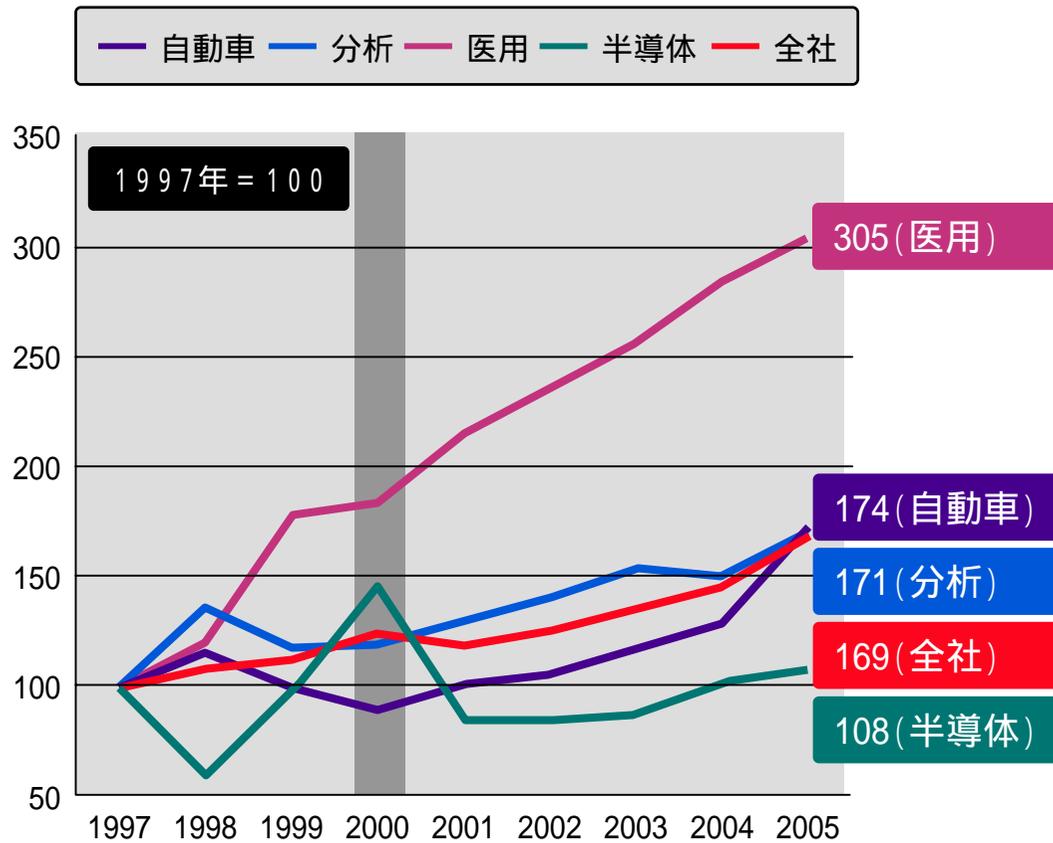
効率経営を推進

トータルソリューション提供により収益性を高める

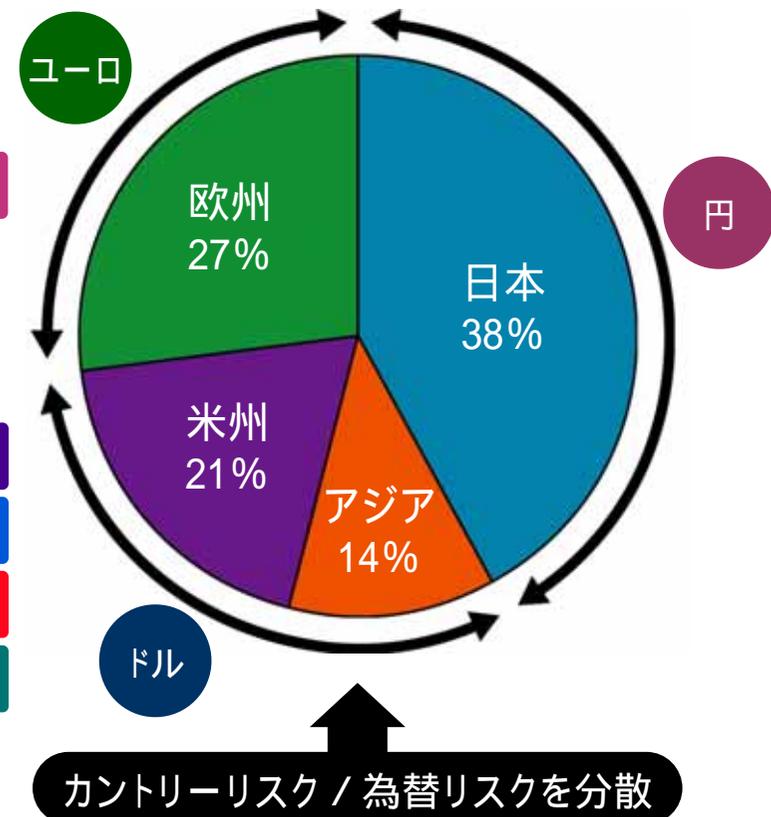
単なる分析・計測にとどまらず、システム全体の
制御を含む、より付加価値の高いサービスを提供

バランス経営 ～ 事業・エリア分散によるリスク回避～

セグメント別売上高(10年推移)



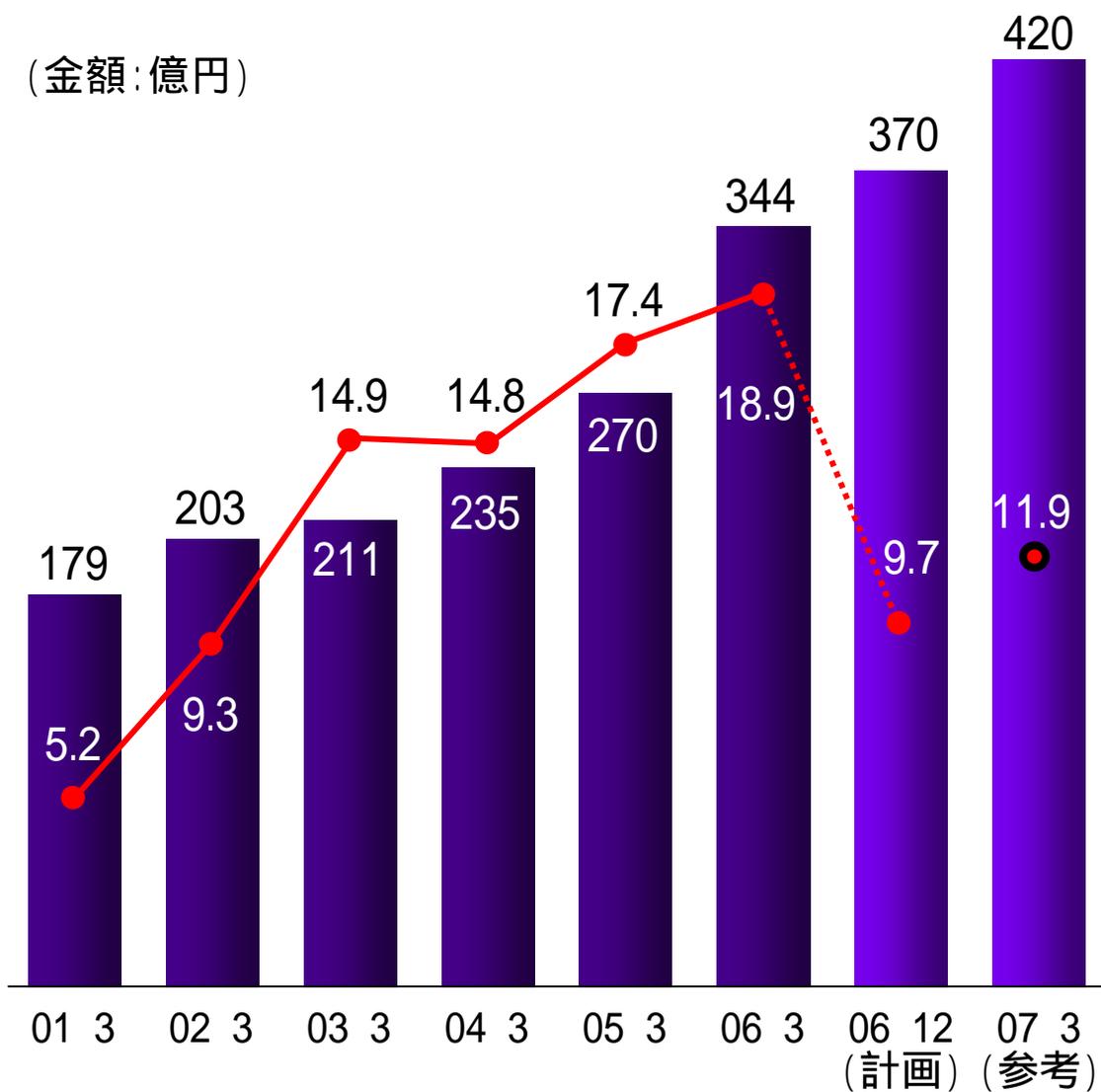
地域別売上高比率(当中間期実績)



自動車

連結セグメント別売上高・営業利益率推移

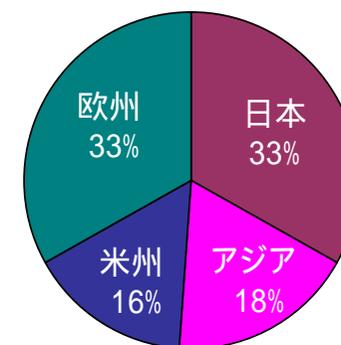
(金額: 億円)



■ 売上高 ● 営業利益率

(金額: 億円)

	2006.3	2006.12 (計画)	2007.3 (参考)
売上高	344	370	420
前期比	+27.5%	+7.4%	+21.9%
営業利益	65	36	50
前期比	+38.3%	-44.7%	-23.2%



地域別売上比率 (中間期実績)

Explore the future

HORIBA

中間期実績および今後の見通し

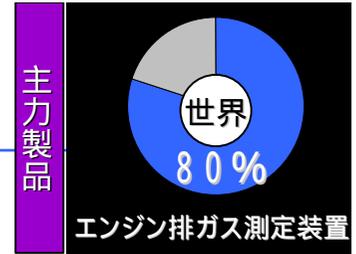
中間期実績	前年同期比	売上	+52.6%	営業利益	26.5%
排ガス計測事業					
+ 中国・韓国・インド市場中心にアジア向け販売拡大(22億円 → 27億円)					
DTS事業					
+ 売上高寄与59億円(今期よりフル計上、前期は4Qのみ合算)					
- 営業利益 3億円(事業 1億円、営業権償却2億円)					

今後の見通し	トレンド	売上		営業利益	
排ガス計測事業					
+ アジア向け堅調持続(前期50億円 → 今期40億円 9ヵ月ベース)					
- 米国向け規制需要一巡で減少(前期62億円 → 今期40億円レベル)					
DTS事業					
+ グローバルに受注・売上拡大(売上計画10億円上方修正、120億円へ)					
- 通期ベース営業利益 5億円(事業 2億円、営業権償却3億円)					

(注) DTS事業 = カール・シエンク社(独)自動車計測機器部門

自動車

排ガス計測とDTS事業のシナジー



強力なブランド力とグローバル展開力を活用し、自動車エンジン / 完成車における総合計測システムプロバイダとしてグローバルNo.1をめざす

市場規模 (億円)	テスト領域	HORIBA	DTS	統合後
400	排ガス	強	弱	強
1000	エンジン性能	弱	強	強
300	駆動系	弱	強	強
200	車体	弱	強	強
10	風洞実験	弱	強	強
50	ブレーキ	弱	強	強

弱 ← → 強

現状の取り組み / 実績

日本市場で活発な引き合い、受注実績

エンジンダイナモ、ブレーキテストに多くの引き合い、シエンク東京衡機(株)吸収合併後受注10億円超

米国・南米(日系)でトータルシステム納入
HORIBAのグローバルサポート力に対し、お客様から高評価を得る

日本・アジア市場導入への布石

京都本社に新エンジンテストセルを設置
2007年前半に稼動開始

2010年世界市場規模 2,000億円 ~ 目標シェア25%

事業対象市場合計: 当社推計

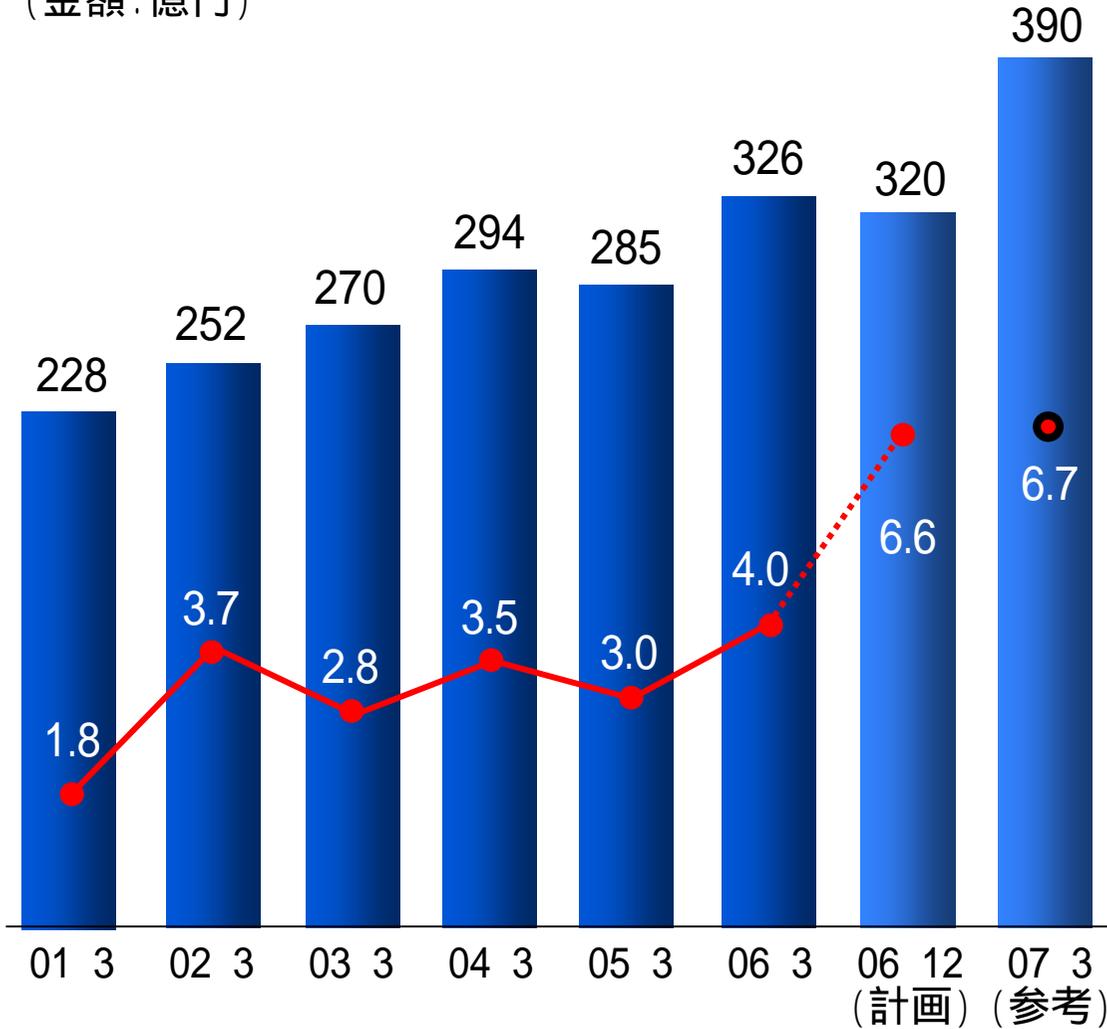
Explore the future

HORIBA

分析

連結セグメント別売上高・営業利益率推移

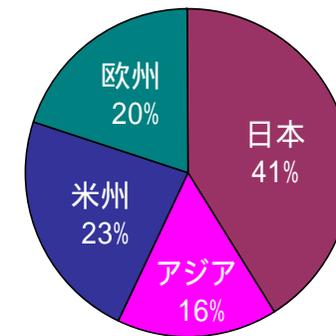
(金額: 億円)



■ 売上高 ● 営業利益率

(金額: 億円)

	2006.3	2006.12 (計画)	2007.3 (参考)
売上高	326	320	390
前期比	+14.6%	-2.1%	+19.4%
営業利益	13	21	26
前期比	+53.4%	+58.8%	+96.7%



地域別売上比率 (中間期実績)

Explore the future

HORIBA

中間期実績および今後の見通し

中間期実績	前年同期比	売上	+27.3%	営業利益	黒字転換
<p>+ 欧州有害元素規制 (WEEE-RoHS指令) 対応用 X線分析装置が、アジア地域の部品・素材メーカー向け中心に販売拡大 (+10億円)</p> <p>オイル中硫黄分析装置が北米向け規制対応で急拡大 (+15億円)</p> <p>煙道排ガス分析装置が国内の活発な更新需要で販売拡大 (+3億円)</p>					

今後の見通し	トレンド	売上		営業利益	
<p>+ X線分析装置 短期的にピーク感あるも、中長期的なポテンシャル大 2008年中国版RoHS、ELV(自動車リサイクル)世界市場拡大</p> <p>煙道排ガス分析装置 国内 火力発電所 / ごみ焼却炉向け更新需要継続 + シェア上昇 中国 火力発電所等プラント向け、本格導入開始</p> <p>- オイル中硫黄分析装置は需要一巡 ユーロ高 / ドル安は、ホリバ・ジョバンイボン社(仏)の採算悪化要因</p>					

科学分野

ハイエンド市場向け強化(ラマン、粒子径分布、X線分析など)
 ナノテク・バイオ市場への積極的な取り組み
 (カーボンナノチューブ、有機EL、化合物半導体など)

注目の新製品 顕微鏡用迅速試料作成装置「TENSEC」

世界最速10秒でサンプルの表面処理を実現
 2007年度出荷開始



主力製品



ラマン分光測定装置

	2006.9 中間実績	2006.12 通期計画
売上高	129	230
営業利益	6	16

(単位:億円)

環境分野 (世界市場2000億円)

重点戦略 先進国市場におけるビジネス対象の拡大

環境規制ビジネス
 (工場排水等規制対応)

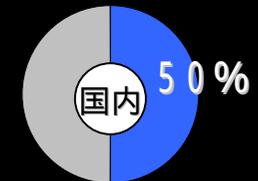


非規制ビジネス
 (産業プロセス制御等)

重点戦略 中国を中心とした新興市場需要の確実な取込

日本で蓄積された環境計測ノウハウをフル活用し
 ローカルの規制に適合した製品群を市場投入

主力製品



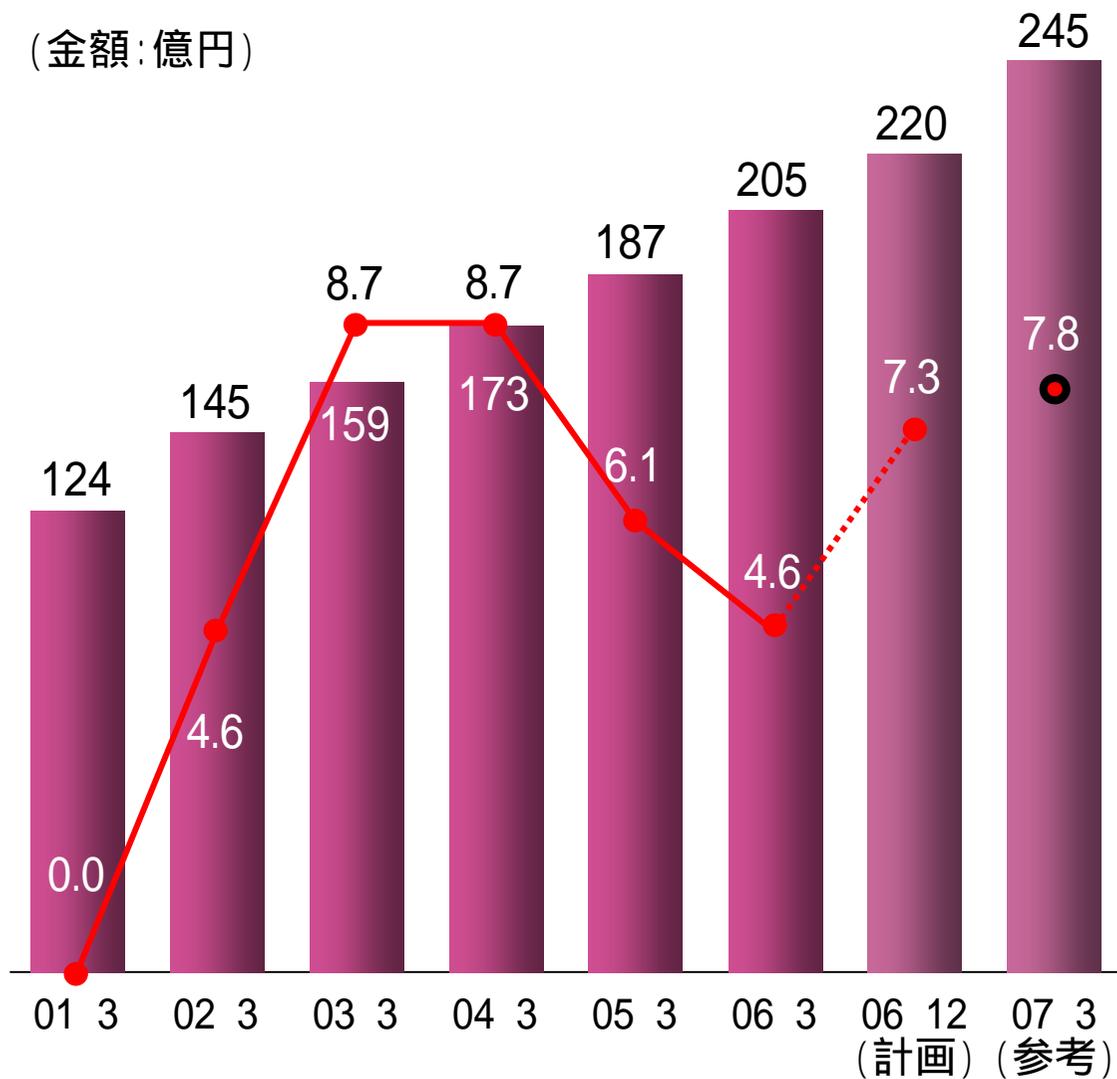
煙道排ガス分析装置

	2006.9 中間実績	2006.12 通期計画
売上高	52	90
営業利益	3	6

(単位:億円)

連結セグメント別売上高・営業利益率推移

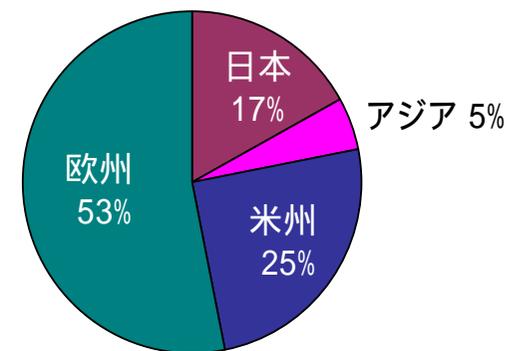
(金額:億円)



売上高 営業利益率

(金額:億円)

	2006.3	2006.12 (計画)	2007.3 (参考)
売上高	205	220	245
前期比	+9.2%	+7.3%	+19.5%
営業利益	9	16	19
前期比	-16.8%	+67.9%	+99.4%

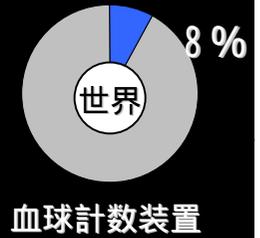


地域別売上比率 (中間期実績)

中間期実績および今後の見通し

中間期実績	前年同期比	売上	+24.0%	営業利益	+292.2%
<p>+ 新製品の大型血球計数、中型生化学装置の販売拡大 (+ 5 億円)</p> <p>機器稼働台数増による検査試薬の販売増加 (+ 9 億円)</p> <p>免疫測定 (CRP) 機能付血球計数装置好調 (+ 2 億円)</p> <p>ユーロ高の売上への影響 (+ 3 億円)</p>					
<p>- 新製品拡販、開発費増に伴う販売管理費増加 (+ 7 億円)</p>					

今後の見通し	トレンド	売上		営業利益	
<p>+ 大型血球計数装置、中型生化学分析装置の販売拡大継続</p> <p>検査試薬販売増 収益向上 (売上比率今期48% 2010年55%メド)</p> <p>中国向け販売拡大 (今期5億円 2010年30億円目標)</p> <p>病院向け血糖計ビジネス拡大 (日本 欧米へ展開)</p>					
<p>- ユーロ高 / ドル安傾向は、ホリバABX社(仏)の輸出採算悪化要因</p>					



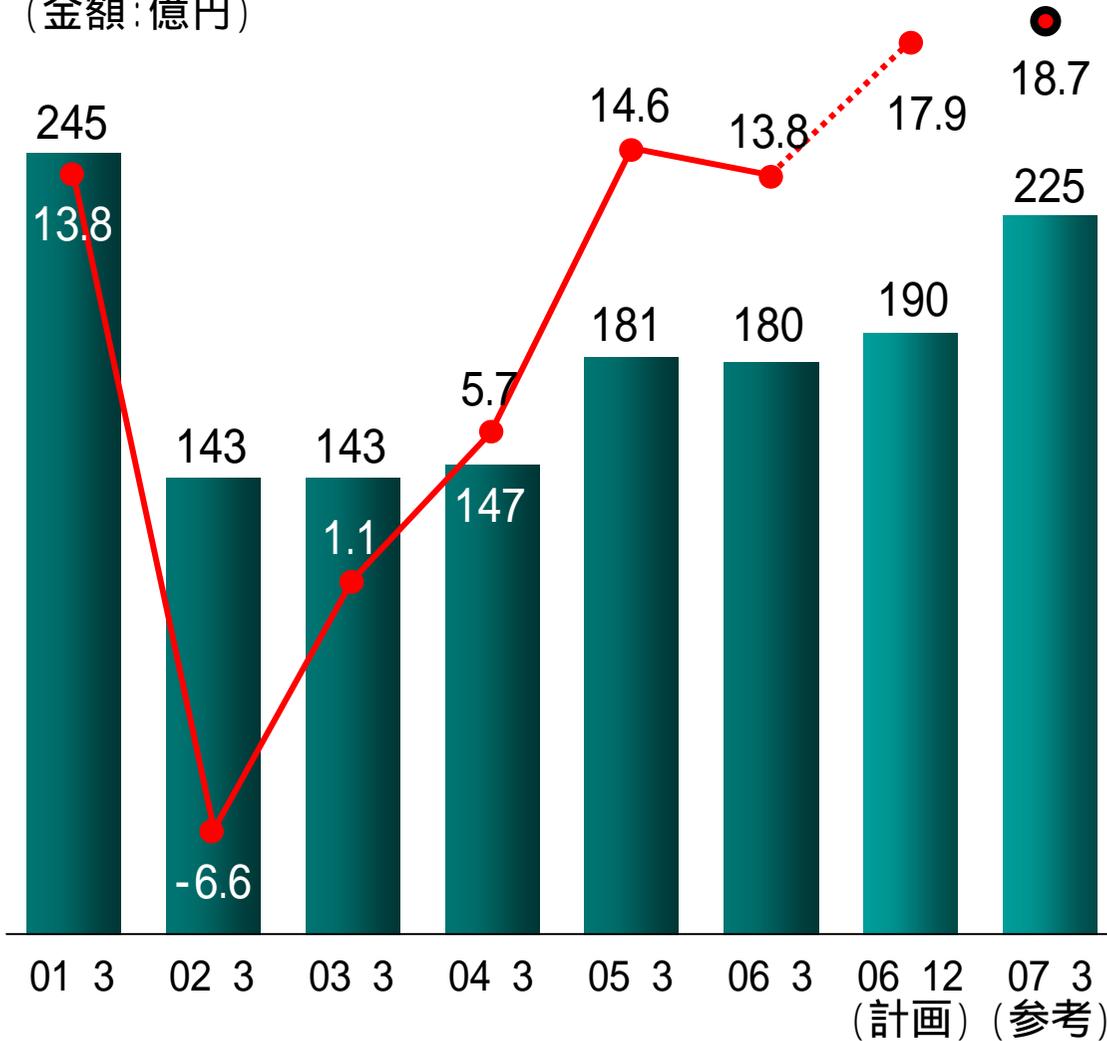
検査カテゴリ		生化学	血液		免疫
			血球計測	凝固	
市場規模		1兆円	2千億円	1千億円	1兆円
病院	大病院 検査センター	強化していく エリア	血球検査 システム		従来強みを 持つエリア
	中小病院	生化学分析装置 (ロシュ社:MIIRA 自社開発製品)	中・小型 血球計数装置	凝固試薬 (BIO PEP社)	
開業医		血糖値測定 (三共より買収)			CRP計測 (炎症検査)
病棟・手術場 (POCT)		小型生化学			

HORIBA
ABX

堀場

連結セグメント別売上高・営業利益率推移

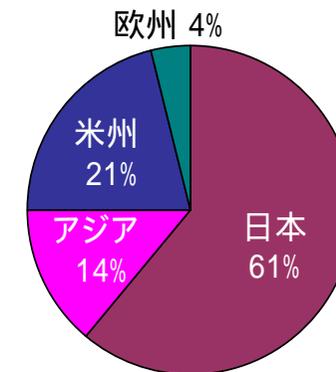
(金額: 億円)



■ 売上高 ● 営業利益率

(金額: 億円)

	2006.3	2006.12 (計画)	2007.3 (参考)
売上高	180	190	225
前期比	-0.8%	+5.3%	+24.7%
営業利益	24	34	42
前期比	-6.3%	+36.5%	+68.6%



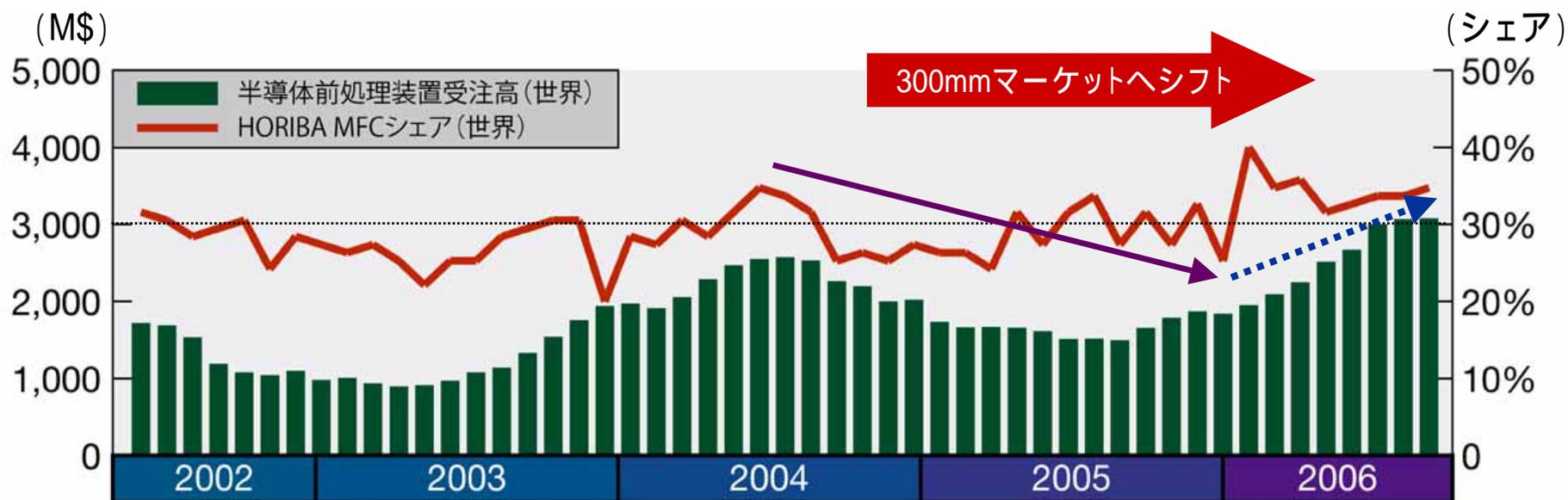
地域別売上比率 (中間期実績)

中間期実績および今後の見通し

中間期実績	前年 同期比	売上	+37.1%	営業利益	+125.7%
<p>半導体製造装置用マスフローコントローラ</p> <ul style="list-style-type: none"> + 半導体市場の好調および北米向け増加で販売急回復 (+ 23 億円) 阿蘇工場増設で生産増、短納期に対応 <p>半導体・液晶プロセス用検査装置</p> <ul style="list-style-type: none"> + 洗浄機用薬液モニタ販売拡大 (+ 6 億円) 液晶用中心に薄膜検査装置販売好調 (+ 1 億円) 					

今後の見通し	トレンド	売上	→ ?	営業利益	→ ?
<p>半導体製造装置用マスフローコントローラ</p> <ul style="list-style-type: none"> + 半導体製造装置需要の好況継続を見込む 増産体制を構築 新型差圧式マスフローコントローラを高級機市場に展開 <p>半導体・液晶用検査装置</p> <ul style="list-style-type: none"> + 洗浄機用薬液モニタ、半導体異物検査装置復調 					

マスフローコントローラ (MFC) の動向



製品ラインアップ充実で、シェア拡大傾向 (現状シェア約35%)

300mm市場、米国向け強化により、なお拡大余地 (現状シェア夫々約20%)

▶ 2007年前半に世界シェア40%目標

半導体前処理装置市場活況

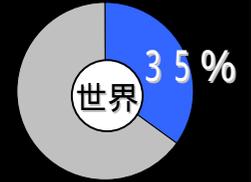
2006年末～2007年前半の堅調見込む

マーケット縮小時の価格下落懸念 ▶ コストダウンで対応

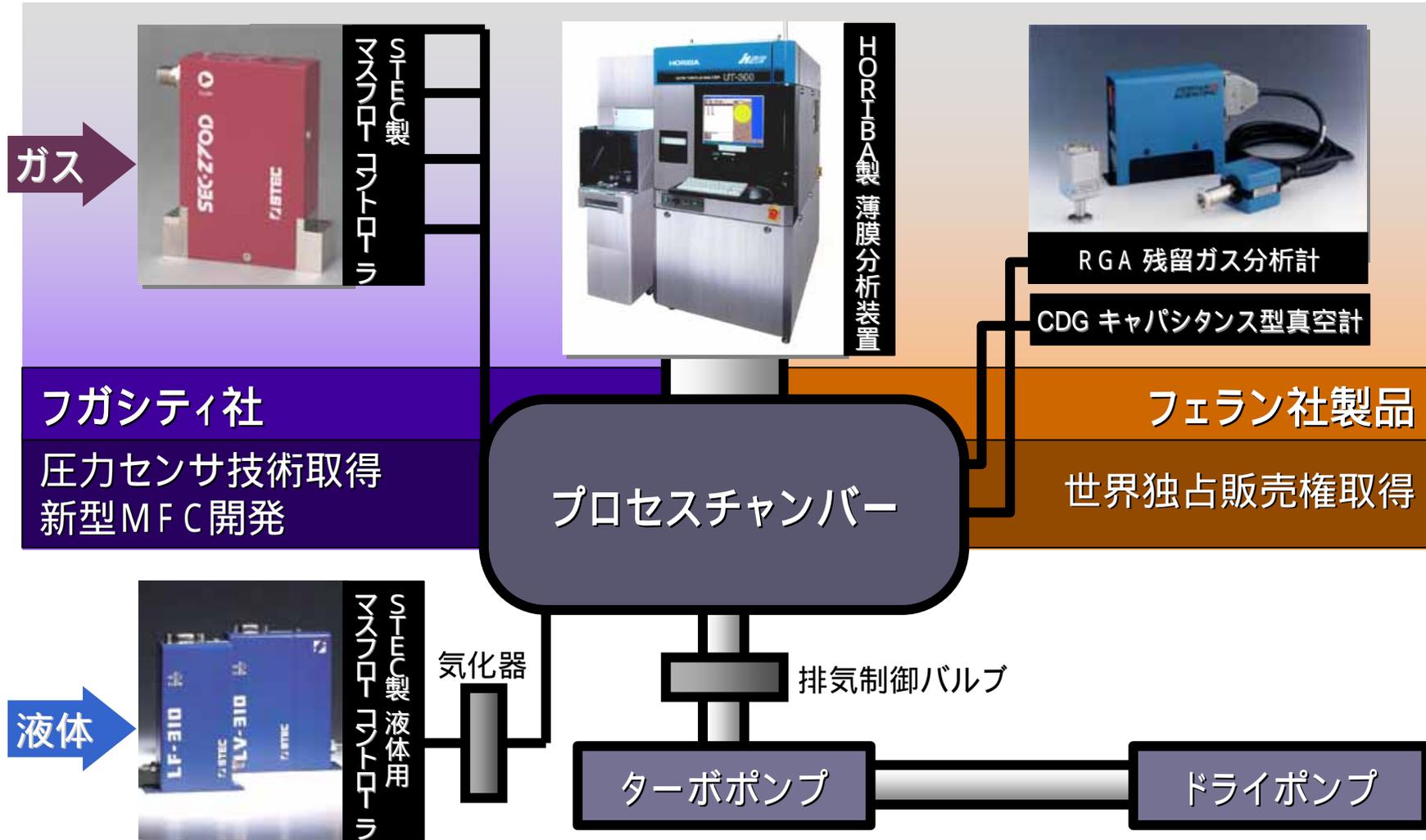
半導体

半導体プロセスチャンバー周辺の計測・制御トータルソリューションを提供

主力製品



マスフローコントローラ



Explore the future

HORIBA

説明内容

- 中間決算サマリー
- 業績通期計画
- セグメント別詳細説明
- **経営上の取組事項**
- 新中長期経営計画概要

「One Company 経営」の推進

HORIBA GROUP is One Company

HORIBAグループは、統一されたブランドの下、
ビジョン・戦略を共有し、One Companyとして、
グループの企業価値・利益最大化を追求する

< これまでの施策 >

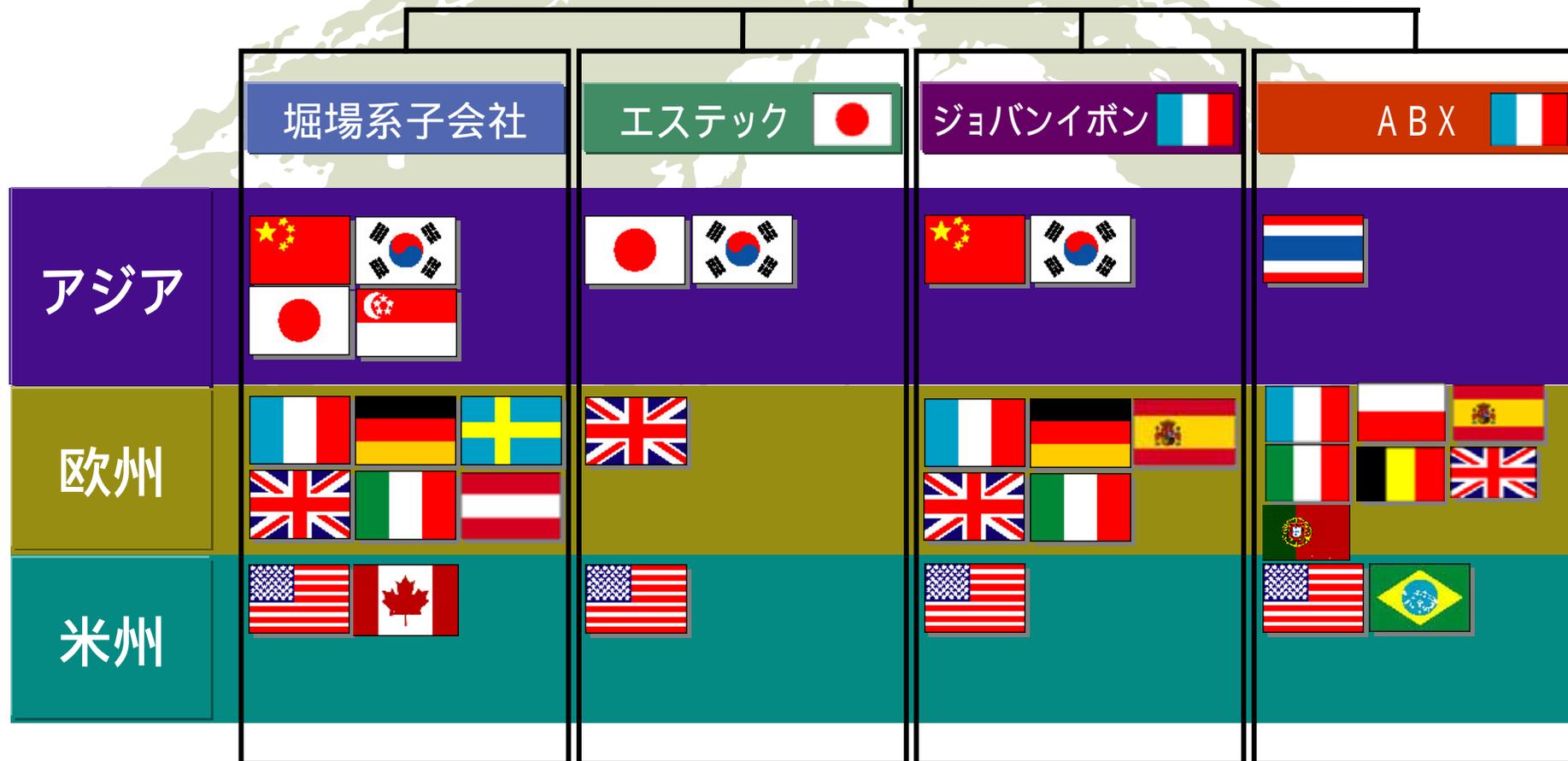
社名変更・ブランドの統一
マトリックス経営の導入

「One Company」マトリックス経営の導入

従来の事業運営体制

HORIBA

堀場製作所



Explore the future

HORIBA

「One Company」マトリックス経営の導入

現在の事業運営体制

エグゼクティブ コミッティ
(グループ経営決定機関)



Explore the future

HORIBA

「One Company」におけるグループ会社の統合・再編

日本

国内グループ2社を堀場製作所に合併

5月19日付

シエンク東京衡機(株) DTS日本代理店
DTS製品の販売・サポート力を強化

6月9日付

(株)ホリバ・バイオテクノロジー バイオ技術の基礎開発
試薬開発・製造技術を移管、医用セグメントの開発拠点へ

中国

生産 上海第2工場オープニング(全事業部門の製品を生産)
販売 全グループの販売拠点を統合(上海・北京)

One Company
モデル地域へ

韓国

韓国生産グループ会社を完全子会社化(70% → 100%)
HORIBA製品販売会社を買収(年内実施予定)

韓国グループ会社の
完全統合を視野に

Explore the future

HORIBA

「One Company」における資本政策

継続的な利益成長とバランスの取れた資本構成で、ROE 11%以上をめざす

企業価値を反映したフェアな株価形成 ~ 株主構成多様化政策の実施 ~

外国人・個人向けIR活動強化 + 単元株引き下げ実施

	2005.3	2006.3	2006.9	中期目標
外国人持株比率	15%	20%	21%	25-30%
単元株主数	2,492名	4,082名	4,433名	5,000名超

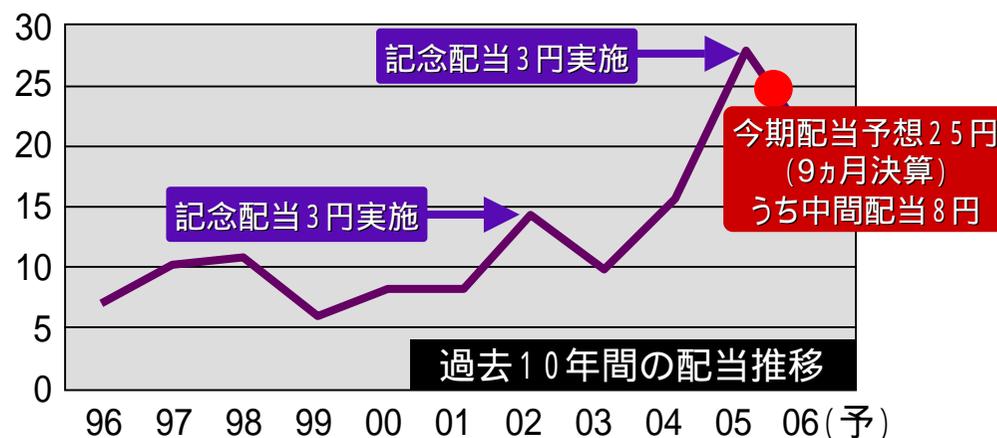
配当政策 ~ 基準配当性向制度採用 (堀場製作所単体純利益 x 30%)

配当に対する考え方

企業の成長にリンクした配当を実施

成長持続のための投資資金として
残りを内部留保として確保

中期的には資本と投資のバランスを
考慮し、最適な配当政策を選択



Explore the future

HORIBA

説明内容

- 中間決算サマリー
- 業績通期計画
- セグメント別詳細説明
- 経営上の取組事項
- **新中長期経営計画概要**

中長期経営計画の骨子(2006~2010年度)

「One Company経営を実現し、
真のグローバルカンパニーをめざす」

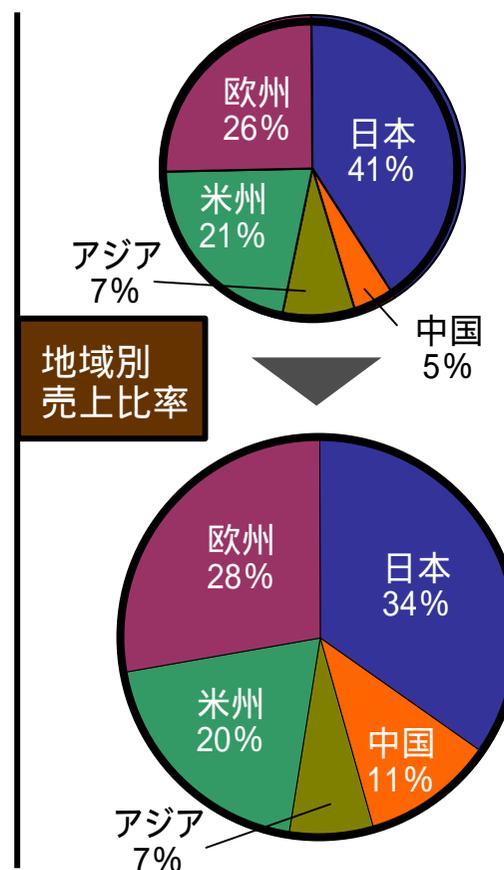
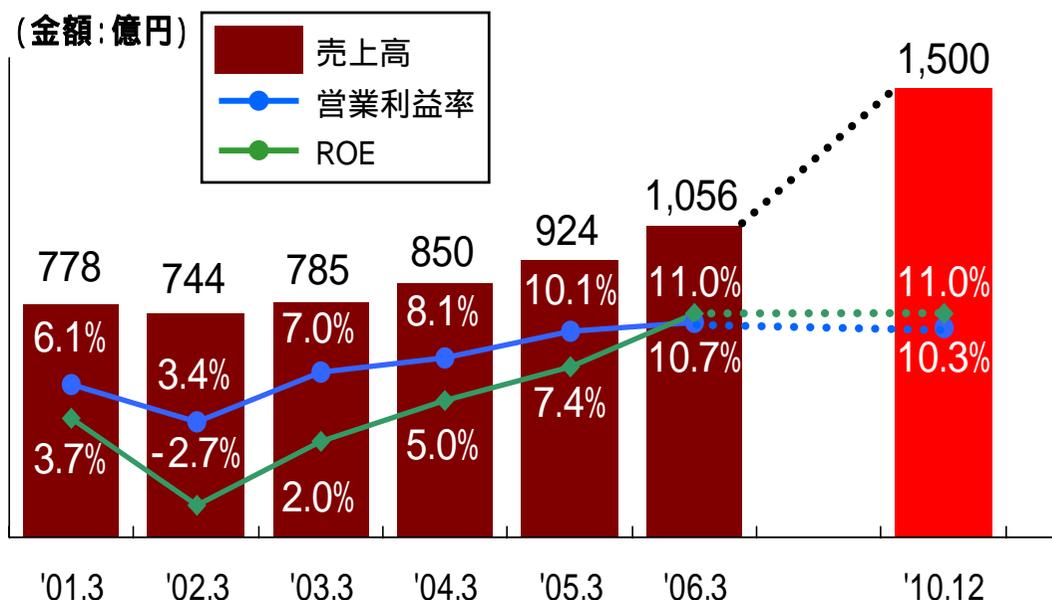
- 売上高2,000億円企業に向けた土台作り
- バランスの取れた事業の成長
- 「見えない資産」の価値向上



連結売上高・営業利益率・ROE推移

2010年度 目標数値	売上高	1,500億円	(1,056億円)
	営業利益率	10%以上	(10%)
	ROE(株主資本利益率)	11%以上	(11%)
()は2005年度実績			

	2005年度実績	2010年度計画	年間成長率
売上高	1,056	1,500	7.3%
営業利益	112	155	6.8%



セグメント別 2010年度業績目標

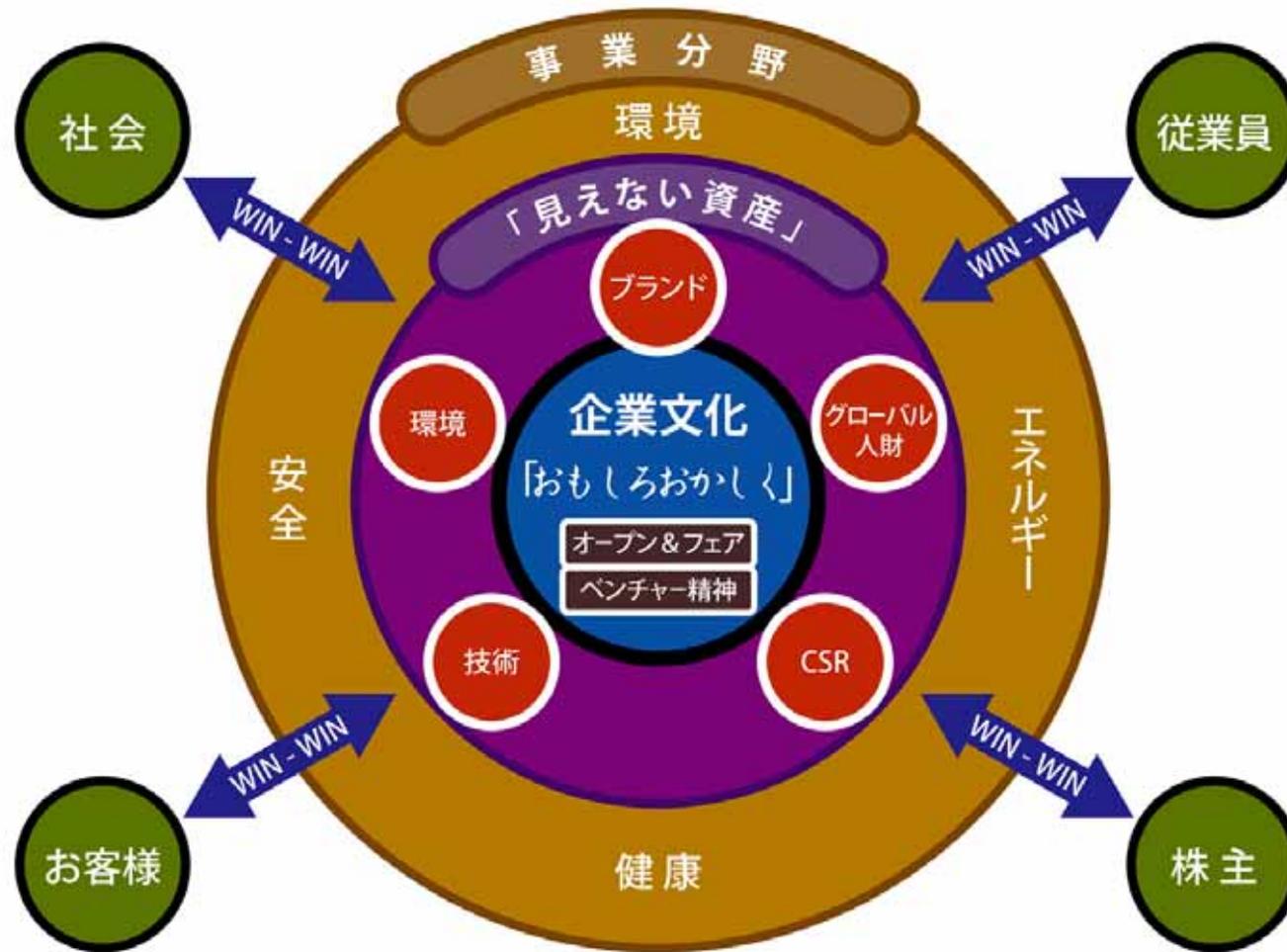
(金額:億円)

	売上高	2006年3月期比	営業利益	2006年3月期比
自動車	500	+ 45.1%	65	± 0.0%
分析	400	+ 22.4%	22	+ 66.4%
医用	330	+ 60.9%	33	+346.6%
半導体	270	+ 49.7%	35	+ 40.6%
合計	1,500	+ 42.0%	155	+ 37.4%

Explore the future

HORIBA

企業文化を中心に据えた経営の推進



すべてのステークホルダーと“WIN-WIN”の関係を構築することで、
持続的な成長と企業価値の創造をめざす

ご清聴ありがとうございました。



M L M A P

Mid-Long Term Management Plan

2006-2010

Explore the future

HORIBA

© 2006 HORIBA, Ltd. All rights reserved.